

情報 FUKUOKA 第102号



トライ



九州旅客鉄道労働組合
福岡地方本部

発行責任者 岩永 康志
編集責任者 森永 克章

北九州市小倉北区室町3-2-155
NTT (093) 583-3385
JR (091) 4307~4308

多くの内容が前進 再雇用制度等を説明 出向者・退職前提退職者激励集会を開催

福岡地本では、4月15日・17日・23日に北九州地区並びに博多地区・小倉地区において出向者・退職前提退職者組合員激励集会を開催しました。各集会には総勢140名もの組合員に参加していただき有意義な集会となりました。

集会では久保田副委員長よりこれまでJR九州労組が会社と協議をして確立してきた再雇用制度や再雇用に伴う基本給等の説明・年齢厚生年金の支給開始年齢引き上げに伴う無年金期間の説明・60歳以降の共済関係取扱い等の説明が行われました。

その後行われた激励会では出向先での労働条件や職場での問題点等の意見交換が行われ福岡地本としてどのようなことが出来るか、本部を通じた出向先の会社とどのようなやりとりが行えるか議論しました。また、日頃顔を合わせることもない他業種の組合員と友好を深めました。



今後の組合を担う役員になろう 分会役員セミナーを開催

4月19日(土)博多バスターミナルの会議室において本部主催の2014年度分会役員セミナーが開催されました。セミナーには平成採用の組合役員を中心に40名が参加しました。セミナーでは許斐中央委員長より基調講義として国鉄改革やJR九州労組の誕生・労働組合とは・JR九州の株式上場についての講義、中原書記長より2014春闘について、北村教育部長よりJR九州労組の概要について、芦原中央執行副委員長より



り中期労働政策の実現に向けた取り組みについて講義が行われました。

セミナー参加者からは今春春闘の質問等が出されとても有意義なセミナーとなりました。

サマーフェスティバル開催決定

8月23日(土)・24日(日)・25日(月)
平和/環境/交流: 朝倉地区
内容等詳細については追ってお知らせします

5月 生活応援バンク ろうきん

給与控除日 口座引き落とし日
23日 ⇒ 28日

※28日の引落しが出来ないと延滞扱いになります。ご注意ください。

ウオーキングでイベント

退職者連絡会ではレクレーションの一環としてJR九州ウオーキングに参加しています。4月27日に開催された基山ウオーキングでは20名を超す会員が集い、つつじで有名な大興禅寺や地酒「基峰鶴」の酒蔵を散策しました。また、終了後は懇親会も開催し親睦を深めました。

- 5/17 小倉駅ウオーキング
- 5/24 田川伊田駅ウオーキング



今後は5月17日の小倉駅ウオーキングや5月24日の田川伊田駅ウオーキングに参加します。会員の方で参加を希望される方は退職者連絡会までご連絡下さい。

福岡地方本部 今月の顔

福岡地方本部の役員に新たに選出された役員を紹介するコーナー。今月はこの方

河内 啓

かわち ひろし



○出身地 大分県
○職場 門司車掌区
○担当 組織・業務・安全・レクサークル
○ひと言 「地本役員としては力不足とは思いますが、何事も勉強と思い精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。」

安田 薫さん 元門司車掌区
○現在の家族構成 長男・長女は独立し孫が4人います。
○楽しみ 春・秋の中津港での波止場釣り。
○健康状態 糖尿病、高血圧、不整脈等成人病の宝庫です。陽気にノテンキに生きています。

○旅行や計画 しまなみ海道や台湾に旅行に行きました。
○JR最後の職場と近況について

門司車掌区退職後は退職保険で食いつなぎJRセコムに入り、その後はシルバー人材派遣で草刈りや剪定作業を行っていましたが、現在では年金で生活をしています。

今何しよっと?

委員長のつぶやき

この間、安全について数回にわたり、述べてきた。当然のことながら、人の生命と健康はかけがいのないものであり、どのような社会であつても、働くことで生命が脅かされたり、健康が損なわれたりするようないことは、本来あつてはならない。こうした悲劇を少しでも減らすため、国の労働災害防止計画をはじめ、各企業における工夫された各種の防止活動が展開されてきているが、国内において、仕事上の事故で亡くなる人は依然として数多くいるのが実態である。また、怪我を負ったり病気になる、4日以上仕事を休んだ人は、福岡県だけでも年間4,900人に達している。(厚生労働省福岡労働局調べ)なお、全国レベルで長時間労働、過重労働による脳・心臓疾患事案の労災請求件数は依然として高止まりの状況にあり、安全に安心し安定して働ける社会の実現のためには、まだまだ多くの解消すべき現実的な課題が山積していることを裏付けている。とりわけ、非正規労働者の増加によるスキルの低下が要因と思われる労災事故が増加傾向にある。

このように、労災事故の背景を垣間見るだけで、現代社会の縮図というか働く者の社会的地位や経済的地位の向上を早急に実現させていかなければならないことが分かる。

したがって、健康問題を含めた安全課題の職場での追究は、私たちの働く環境はもちろんのこと、労働条件全般を将来にわたり改善させていくことにつながる。組合員・家族の共通課題の前進に全力を注ごう。